

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例

【杉戸町教育委員会】

1 学校 中学校

2 ねらい

「分析支援プログラム」を活用し、PDC Aサイクル「実態把握→実践→検証・評価→再実践」により、授業等の改善を図る。

3 取組内容

(1) 生徒の実態把握

研修推進委員会のもとに、学習状況や生活調査等から「学習部会」と「生活部会」をおき、現状と課題を把握する。また、各教科では今年度の達成目標や取組の重点を定めた研究計画を作成し、実践する。

(2) 取組内容の明確化

部会、教科ごとに取組内容を明確にする。

ア「学習部会」

- ・朝自習における繰り返し学習
- ・基礎学力テストによる定着の確認
- ・個別指導による学習支援
- ・家庭学習課題の設定
- ・学習履歴型ドリル利用のガイダンス
- ・読書活動の推進

イ「生活部会」

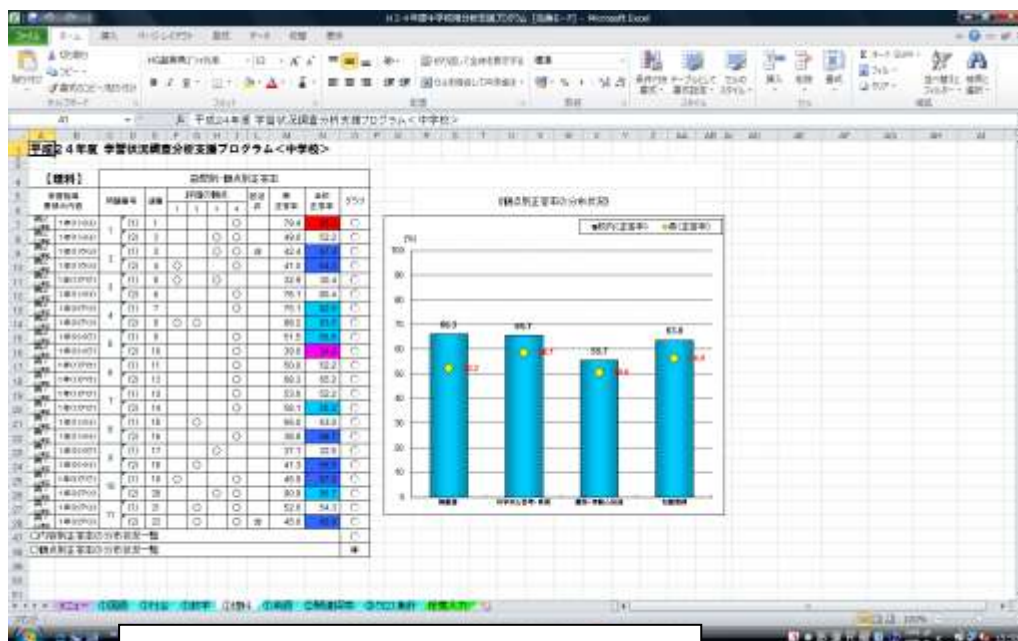
- ・生活委員会による学習規律の点検
(月別アンケート、チャイム着席点検)
- ・学年委員会における授業状況調査の活用
(授業状況の改善、生活目標の設定)

ウ「教科」

次の結果を分析し、達成目標や取組の重点を定めた研究計画の作成

- ・県学習状況調査及び分析支援プログラム
- ・標準学力調査及びフォローアップシート
- ・「3つの達成目標（読む・書く）」
- ・定期テスト

【分析支援プログラム】



【教科の研究計画等の例】

数学科 研究計画(一部抜粋)

- 1 研究の重点 基礎・基本の習得を図るとともに、数学的活動を通して活用力を育む授業の工夫
- 2 数学科の達成目標

- (1) 計算が正確に早くできるようにする
- (2) 数量の関係や図形の性質をしっかりと理解する
- (3) 数学的活動を通して、数学的な思考力・表現力を高める

- 3 努力点・施策(今年度の重点的な取り組み)

努力点	具体的な施策
(1) 生徒の実態に即した指導計画の作成と改善・充実	・指導内容の系統や領域間の関連を明確にし、発達や学年の段階に応じた反復による指導計画の作成
(2) 数学的活動を通して活用力を育む授業の工夫	・数学的活動を通して、数学的な思考力・表現力を高める学習展開の工夫と改善 ・反復の視点を取り入れた学習活動の展開 ・教具（ICT含む）の活用等、視覚的な工夫
(3) 基礎的・基本的な内容の徹底	・「数学科の基本」の確実な実践と反復による指導 ・少数指導を通じた個に応じた指導の充実
(4) 考えのよさを生かす指導と評価の工夫	・「努力を要する」生徒を「おおむね満足できる」状況に高めるための支援の具体的な実践

国語科 学力テストの分析から学力向上のための具体的な手だてと工程表 (一部抜粋)

指導事項 (県平均以下の項目)	取組期間 (取り組み月)	具体的な手だてと指導内容 (どのように取り組ませるか)
【1年】 漢字の書き	①9月 ②毎週1回 (9～3月) ③11月	①夏休み中に小学6年の漢字を範囲として宿題を出し、その確認テストを実施する。 ②「漢字・語句ノート」より10題ずつ小テストを実施する。 ③朝自習で同訓異字の書き取りを練習し、基礎学力テストをする。
【2年】 新聞記事の読み取り	3月	「総合的な学習の時間」に学んだ新聞の書き方を思いだし、実際の新聞と見比べる。新聞の構成を確認し、気になる新聞記事を選び、要約し、それに対する感想や意見を書くことにより、読み取り方を習得させる。

- 4 成果と課題 各種学力調査の他、分析支援プログラムを活用することにより、一層詳しく現状と課題の把握ができ、それらをもとに実態に即した対応策を検討できた。